第十　國語とローマ字

(一)

前に「ローマ字說」(三三頁以下)及び「ローマ字綴り問題」(五九頁以下)において、國語國字問題におけるローマ字の事を說いておいた。こゝには我が國語を書き表はす「標準式」のローマ字綴り方の大要を述べることにする。

標準式の普及

さて「標準式」は舊來の假名遣に據らないで、現代の標準語の發音を目あてとしてゐるもので、實用的であると共に學理的であり、我が國內及び國外に最も廣く普通に行はれてゐる。その實例を云へば、政府發行の貨幣・紙幣・債券などを始め、鐵道の驛名の立札や揭示や旅行案內書など、それから官民の名刺、會社や商店の看板やレッテルや包紙など、それから日本語とイギリス、フランス、ドイツ、ロシア、イタリア、イスパニアなどの諸國語との對譯辭書は云ふまでもなく、その他の學術書や外交文書や外國の書籍・新聞・雜誌・地圖などの中の日本語には、「標準式」が最も有力なローマ字綴り方となつてゐる。

「標準式」は、昔の假名音圖に囚はれず、舊假名遣に束縛されず、善く現代の標準語音を書き表はして、國語の性質を明かにし、同時に對外關係をも考へて國語の世界的發展にも

便利であり、且つ國語の發達に應じて必要な修正を加へて進化し得るやうにしてゐるものである。それで「標準式」は「世界的日本式」とも云ふべく、我が祖國語を、內國人のみならず外國人にも知らしめ易いやうに、さうして小島國的でなく、世界的に廣く大きく發達し得るやうに綴る所のローマ字の用ひ方である。

假名とローマ字

（二）

以下に我が現代語の標準ローマ字綴り方を假名書きに對照して示す。それについて斷つておく事が二つある。その一は、これまで稱へてきた假名の「五十音圖」「淸音圖」「濁音圖」「半濁音圖」「拗音圖」などと云ふものは、今の音聲學から云へば頗る不合理なものである事。その二は、假名とローマ字とは成立が異なつてゐるから、嚴密に云へば、假名書きとローマ字綴りとは比較對照しがたい所が少なからぬ事である。先づその圖表を揭げよう。

（注意）前に述べたやうに、「標準式」は、國語の發達に應じて「羅馬字會式」に若干の修正を加へたものである。例を左の圖表に取つて云へば、「羅馬字會式」ではヤ行のエを ye としワ行のヲを wo として、助詞の「へ」と「ヲ」との場合だけに ye, wo を用ひてゐたのを修正して、「標準式」では標準語の發音に從ひ、この例外を除き去つて、一般に e, o と書くことに改めたのである。

〔假名の音圖と對照したローマ字綴り表〕

ア a	イ i	ウ u	エ e	オ o			
カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キャ kya	キュ kyu	キョ kyo
サ sa	シ shi	ス su	セ se	ソ so	シャ sha	シュ shu	ショ sho
タ ta	チ chi	ツ tsu	テ te	ト to	チャ cha	チュ chu	チョ cho
ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ニャ nya	ニュ nyu	ニョ nyo
ハ ha	ヒ hi	フ fu	ヘ he	オ ho	ヒャ hya	ヒュ hyu	ヒョ hyo
マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ミャ mya	ミュ myu	ミョ myo
ヤ ya	イ i	ユ yu	エ e	ヨ yo			
ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	リャ rya	リュ ryu	リョ ryo
ワ wa	(ヰ)イ (wi) i	ウ u	(ヱ)エ (we) e	(ヲ)オ (wo) o			
ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギャ gya	ギュ gyu	ギョ gyo
ザ za	ジ ji	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ジャ ja	ジュ ju	ジョ jo
ダ da	(ヂ)ジ (dji) ji	(ヅ)ズ (dzu) zu	デ de	ド do	(ヂャ)ジャ (dja) ja	(ヂュ)ジュ (dju) ju	(ヂョ)ジョ (djo) jo
バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bo	ビャ bya	ビュ byu	ビョ byo
パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	ピャ pya	ピュ pyu	ピョ pyo

つぎに標準ローマ字綴りについて九箇條の注意を掲げる。

古音と現代音

（一）**古音と現代音**　古音のキ、エ、ヲ、ヂ、ヅ、ヂャ、ヂュ、ヂョは、現代の標準音ではイ、エ、オ、ジ、ズ、ジャ、ジュ、ジョと同樣になつてゐる。そこで、これらは假名の字に拘泥しないで現代の標準音に從つて綴る。これは、大正十三年に發表された文部省調査の改定假名遣でも、「カナモジカイ」や「かながきひろめかい」などの改良假名文の綴りでも、エスペラントに入れてゐる日本語の地名や人名の綴りでも、ほとんど皆一致してゐる。

假名遣とローマ字綴り

（二）**假名遣とローマ字綴り**　この表のローマ字綴りは、表の上では不劃一に見える所があるけれども、現代の標準音に從つてゐるから、實際に國語を綴るには甚だ便利である。例へば、

imori	＝イモリ	（舊ヰモリ）	inofu	＝イノフ	（舊ヰノフ）
ekaki	＝エカキ	（舊ヱカキ）	eboshi	＝エボシ	（舊ヱボシ）
oke	＝オケ	（舊ヲケ）	otoko	＝オトコ	（舊ヲトコ）
kujira	＝クジラ	（舊クヂラ）	jigoku	＝ジゴク	（舊ヂゴク）
uzura	＝ウズラ	（舊ウヅラ）	zuga	＝ズガ	（舊ヅグワ）
jôtô	＝ジョウトウ	（舊ジヤウトウ）	jôbu	＝ジョウブ	（舊ヂヤウブ）

jubakô ＝ ジュウバコ（舊ヂユウバコ）　manjû ＝ マンジュウ（舊マンヂユウ）

（三）**長音の表記**　長音をあらわすには母音字の上にまたはを冠らせる。卽ち、

ā ī ū ē ō または aˆ iˆ uˆ eˆ oˆ

但し、i または ī を ii であらはし、e または ē を ei であらはすことは、一般に慣用されてゐる。例へば、

iiwake（言ひわけ）　shiika（詩歌）　chiisai（小さい）

orei（お禮）　zeikin（稅金）　heizei（平生）

（附けたり）時として長音に言ふことが有つても、左の如き動詞の語尾は、通例は長音で書かないで、二つの母音字で綴る。

suu（吸ふ）　sukuu（救ふ）　furuu（振ふ）

ou（追ふ）　omou（思ふ）　mayou（迷ふ）

iu（言ふ）　chiu（ちふ、と言ふ）

（四）**撥音の表記**　ンは n で綴る。但し、脣音の p, b, m の前のンを m で綴ることは慣用されてゐる。例へば、

tansu（簞笥）　ninjin（人參）　konnen（今年）　Kannon（觀音）

Asahi Shimbun（新聞）　Konpira（金毘羅）　Tenma-bashi（天滿橋）

ンのつぎに母音またyはが來て、その間で音節をきる場合には、nの右肩に、を加へる。

例へば、

genan（下男）　gen'an（原案）　tani（谷）　tan'i（單位）

genin（下人）　gen'in（原因）　kuni（國）　kun'i（勳位）

kanyu（加入）　kan'yu（勸誘）　kinô（昨日）　kin'ô（金甌）

（五）　**促音の表記**　促音は、そのつぎの音の一字をかさねて綴る。但し、その字がcである場合には、これをかさねないでその前にtを加へて綴る。例へば、

kokki（國旗）　hossa（發作）　lassha（發車）

sekkyô（說教）　shuppan（出版）　motte（以て）

ichi（一致）　nitchû（日中）　zetchô（絕頂）

（六）　**g音の鼻濁**　綴りの中間や終にある ga, gi, gu, ge, go, gya, gyu, gyo, および助詞の gaは、gのまへでこれを鼻濁ngに發音する。例へば、

kaga（加賀）　shugi（主義）　kaguya（家具屋）　Rongo（論語）　komugi（小麥）

an'gyu（行脚）　yôgyû（洋牛）　shugyô（修行）

促音の表記

g音の鼻濁

Hana ga saki, tori ga utau. （花が咲き、鳥が歌ふ）

（七） **助詞の「ヘ」と「ヲ」** 助詞のへとヲは、前には、特にye, woと綴つてゐたが、近來は發音通りにe, oと書く。例へば、

Date Masamune ga tsukai o Rôma e yatta. （伊達政宗が使をローマへ遣つた。）

（八） **固有名詞などの特別の綴り** 固有名詞などの綴りにおいて特別な例の出來てゐるものは、そのまゝに書くがよい。例へば、

Yebisu（「ヱビスビール」には、この綴りを用ひてゐる）

Shimadzu（「島津製作所」には、この綴りを用ひてゐる）

10 yen （何圓の「圓」は、大藏省の貨幣や紙幣などにも、この綴りを用ひてゐる）

（九） **古音や外來語音や方言音の表記** 古音、外來語音、または琉球語・朝鮮語・臺灣支那語・蕃語・アイヌ語等の音、內地の方言音などを、そのまゝに寫す必要のある場合には、下の例の如き綴りを適當に用ひるのが可い。

kwa（クヮ） gwa（グヮ）

例へば、我が方言音の Kwannon（觀音） okwashi（お菓子） gwaikoku（外國） shogwa（書畫）など。

固有名詞などの特別の綴り

古音や外來語音や方言音の表記

si（スィ）　zi（ズィ）　she（シェ）　je（ジェ）

例へば、朝鮮語の字音の sim（沈）や、琉球語の siziri（硯）や、我が方言音の shen-shei（先生）Jenkôji（善光寺）など。

ti（ティ）　tu（トゥ）　di（ディ）　du（ドゥ）

dja（ヂャ）　dju（ヂュ）　djo（ヂョ）

例へば、琉球語の ti(手) tu(戸) udi(腕) dû(銅)や、アイヌ語の a'ui（海）etu（岬）や、我が方言音の sore dja（其れぢや）djôbu（丈夫）など。

tsa（ツァ）　tsi（ツィ）　tse（ツェ）　tso（ツォ）　che（チェ）

例へば、我が方言音の ottsan（お父様）や、gottsô（御馳走）や、che（罵る聲、咄）など。

fa（ファ）fi（フィ）fe（フェ）fo（フォ）

例へば、琉球語の fana（鼻）fi（火）などや、我が方言音の femi（蛇）fo（帆）など。

hu（ホゥ、フを借用）

例へば、Humboldt（人名）など。

wi（ウィ） wu（ヰ） we（ウェ） wo（ウォ）

va（ヴァ） vi（ヴィ） vu（ヴ） ve（ヴェ） vo（ヴォ）

例へば、英語の Wellington（人名） wit（機智） Victoria（人名）、琉球宮古島方言の pavu（蛇）など。

la（ラ） li（リ） lu（ル） le（レ） lo（ロ）

例へば、支那語の「蘭・里・連」の如きは lan, li, lien である。西洋語の父音には r と l とがある。我が國語の r は西洋語の r より弱くて、或は l と r との中間だとも云はれてゐる。

外國語を綴る諸注意

（三）

こゝに外國語の綴り方についての諸注意を附け加へておきたい。むかし支那語（謂はゆる呉音や漢音や唐音）入來の感化によつて、新しい發音や新しい綴字（卽ち字音假名遣）が、我が國語の中に發達した。そのやうに西洋語などの入來の感化によつて、新しい發音や新しい綴字が、我が國語の中に發生するのは當然の事である。いま西洋語その他の外國語をローマ字で記載するについての私考數箇條を附記しておく。

(1) まだ日本語化してゐない原語または原綴字は、活版においてはイタリックの活字で

區別し、筆で書く場合には行下線卽ちアンダーラインを附けて區別する。例へば、

Rôna no kôwaza ni "*Mens sana in corpore sano.*" sunawachi "Sukoyakana karada ni sukoyakana kokoro." to iu koto ga aru.

Eiga ni aparagua a kikinamatte aparaau graaa tana ie

(2) キング、ホテル、フィルムの例のやうに、原語の綴りの King, hotel, film のまゝで用ひるのが便利と認められるものは、そのまゝに之を綴るのが可い。

(3) ビール、シャボン、ウィスキー、ビルディングの例のやうに、原語の發音または綴字が日本語のと比べて著しく趣を異にしてゐるものは、原語の beer または bier, savon, whisky, building を biir, shabon, wisiki, biiding の如く綴るがの可い。

(4) ロンドン、上海、ニューヨーク、ナポレオン、ワシントンの例のやうに、名高い地名や人名において、原の綴りの London, Shanghai, New York, Napoleon, Washington のまゝで用ひるのが適當と認められるものは、そのまゝに之を綴るのが可い。

(5) イギリス、フランス、ドイツの例のやうに、原語の發音、綴字または內容が、日本

語のと比べて著しく趣を異にしてゐるものは、原語の English, France, Deutsch を Iglis, Frans, Dits の如く綴るのが可い。

(6) 以上の如き外國語は、我が普通のローマ字綴り書のつぎに原綴字の括孤をつけたものを示しても可い。

なほ、ローマ字文における語の切りつなぎの方法については、拙著「標準ローマ字文法」に詳にしおいた。

最後に、およそ音聲の種別によつた國語標準音ローマ字綴り表を附錄とする。表について注意すべきことが三つある。

(1) この表は假名の字形によらず、音聲の種類によつて並べたものである。それで假名書きで謂はゆる「直音」や「拗音」と云ふことには囚はれていない。

(2) ん音の鼻濁を書き表はす必要ある場合には、ng を用ひる。但し ng は分裂の恐れがあるから、n(g) 又は ng 又は n を以て之を表はす方が確實である。

(3) 表のうち普通に標準語音とされてゐない音聲には、( )を附けてある。なほ方音などのヂャ、ヂ、ヂュ、ヂェ、ヂョ、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォの如きは、dja, dji, dju, dje, djo, dza, dzi, dzu, dze, dzo と綴る。また外國語音のラ、リ、ル、レ、ロ、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォの如きは、la, li, lu, le, lo, va, vi, vu, ve, vo と綴る。

〔音聲の種別によるローマ字綴り表〕

ア a	イ i	ウ u	エ e	オ o	ヤ ya	(ユィ) (yi)	ユ yu	(ユェ) (ye)	ヨ yo
カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キャ kya		キュ kyu		キョ kyo
ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギャ gya		ギュ gyu		ギョ gyo
ガ ġa	ギ ġi	グ ġu	ゲ ġe	ゴ ġo	ギャ ġya		ギュ ġyu		ギョ ġyo
サ sa	(スィ) (si)	ス su	セ se	ソ so					
シャ sha	シ shi	シュ shu	(シェ) (she)	ショ sho					
ザ za	(ズィ) (zi)	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo					
ジャ ja	ジ ji	ジュ ju	(ジェ) (je)	ジョ jo					
タ ta	(ティ) (ti)	(トゥ) (tu)	テ te	ト to					
チャ cha	チ chi	チュ chu	(チェ) (che)	チョ cho					
(ツァ) (tsa)	(ツィ) (tsi)	ツ tsu	(ツェ) (tse)	(ツォ) (tso)					
ダ da	(ディ) (di)	(ドゥ) (du)	デ de	ド do					
ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ニャ nya		ニュ nyu		ニョ nyo
ハ ha	ヒ hi	(ホゥ) (hu)	ヘ he	ホ ho	ヒャ hya		ヒュ hyu		ヒョ hyo
(ファ) (fa)	(フィ) (fi)	フ fu	(フェ) (fe)	(フォ) (fo)					
パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	ピャ pya		ピュ pyu		ピョ pyo
バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bo	ビャ bya		ビュ byu		ビョ byo
マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ミャ mya		ミュ myu		ミョ myo
ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	リャ rya		リュ ryu		リョ ryo
ワ wa	(ヰ) (wi)	(ヲ) (wu)	(エ) (we)	(ヲ) (wo)					